

夢

を見た。明け方うなされて、思わず布団をはねのける。
学校を卒業してから何十年も経つのに、またもや襲
う悪夢。

——学校に行ってみるとテストの当日。すっかり忘れていた。
「一夜漬け」が常の私にとって、それはまさにピンチ。

さらにこんな夢。

——夏休みが終わって2学期の最初の日。気がつくと山のよ
うな宿題を出されていたのに気づく。心臓ドキドキ、冷や汗
たらたら。

今なお、こんな形で記憶の奥深くに刻まれているなんて、学
校って、結構重荷だったんですね…。

教室での記憶も薄れた今は、「一夜漬け」の詰め込み知識の
ほうも、さっぱり忘れてしまいました。

覚えていることといえば、友達と校庭で日が落ちるまで遊ん
だこと、けんかしたこと、夏期学校の体験を友達と一緒に発表
したこと…。そんな経験や友達の表情、仲間との一体感や、心
の葛藤といったことは、大人になった今でも心のどこかに刻ま
れています。

五感をフル動員した実体験には、その後の人生に、いわば「血
となり肉となっている」**「学びのヒント」**があるということだ
しょうか。

「国立妙高青少年自然の家」は、学校教育や社会教育と連携し
ながら、利用者に自然とのかかわりや、人とのかかわりを通し
た活動を体験していただき、またその実体験から得た**「気づき」**
を通して学んでいくという妙高版の「体験学習法」をより確か
なものにする取り組みを、利用者とともに行ってきました。
「コミュニケーション情報誌『Open the Door!』」の創
刊号では、創立以来15年間にわたり「自然の家」が培ってきた、
この「体験活動からの学びを深める教育手法」を取り上げるこ
とにしました。子どもたちの体験活動の質的向上をはかるため、
「自然の家」がどのような取り組みを行っているか、本号を通し
てお伝えできたら幸いです。

妙高の「体験学習法」は未だ発展途上にあります。さらに一
般性のある学習法として認知されるよう、その水準向上に努め、
子どもたちの体験活動を支援していく必要があります。皆様か
ら多くのご意見やご示唆をお待ちしています。

所長 川野由美子

当施設は平成3年12月に開所しました。まさにその季節、空高く輝いていた星座が「ア
ンドロメダ」「ペルセウス」「オリオン」「カシオペア」でした。宿泊棟の名前は、それら星
座に由来しています。妙高の夜は、漆黒に銀砂をまいたかのような星空が広がります。
利用者みなさん、妙高の星空を楽しみませんか。職員一同お待ちしております。



MYOKOのひみつ この写真は、北西の星空を背景に宿泊棟を撮影しました。画面左にひととき明るく輝いているのは、こと座のベガ（織り姫星）です。
カシオペア棟に沈むこと座。妙高の秋を感じさせる一枚となりました。（撮影データ：2006/10/27 22:32 20分間露光）